

# 承認No. 627 株式会社繁昌鉄工建設

経営革新計画のテーマ

## 鉄骨柱大組溶接システム導入による同業他社からの受注加工体制の構築

経営革新承認日：平成27年4月28日 承認期間：平成26年10月～平成30年9月

### “これまでの経緯”

**昭**和14年に繁昌軽車両という鍛冶屋業として創業した。その後、昭和46年に繁昌鉄工建設として現在の総合工事業に取り組むようになり、昭和55年に現在の法人を設立し、鉄骨製作を中心に鉄骨構造物工事業を営んでいる。また、有資格者を多数揃え、Mグレードの認定を受けている。(Mグレード：具体的には、中高層ビルを中心とした建築工事を取り扱えるグレード。)

これまでは、建築一式工事を主体とした工場運営であったが、これからは鉄骨工事に特化して更なる工場整備を進めて行く。

### “更なる飛躍に向けて”

**当**社は業績は増収を確保しているものの、納期の短縮化、当社対応の多様化、コストダウン等、依頼主の要求は高くなっている。今回は物件の大型化、スピード化、製品精度の向上に対応していくといった事業計画の一部として、経営革新計画の承認に取り組んだ。



既存設備の一例

**会社概要** 代表取締役：繁昌 辰雄  
創業年：1980年(昭和55年)  
資本金：10,000千円  
所在地：鹿屋市田湊町1555-1  
電話番号：0994-48-2041

業種：総合工事業

## “鉄骨柱大組溶接システムの導入”

**経**営革新では、業界状況に応じた生産体制の構築及び提案営業の推進を行うため、まず、鉄骨柱大組溶接システムを新規導入した。この機械は、360度回転しながら、完全溶込型溶接を行うことができるため、この機械導入により、溶接作業工程の①内製化②納期短縮化③対応の多様化④高精度化（高精度加工，溶接品質の均一化）⑤大型化（大⑥低コスト化を実現するとともに、機械化によりクレーンを用いた溶接も機械化することができ、従業員の安全作業も確保することが出来るようになった。

また、同業他社から優良な外注先としての地位を確立することを目指すため、従来顧客（工務店）だけでなく、同業他社の製造依頼にも対応する受注加工体制を整備し、製造依頼を積極的に獲得していく提案営業及び広告宣伝活動に力を入れることで、受け身の体制から脱却し攻めの経営に転じ経営の安定を図っていく。



鉄骨柱大組立溶接システム

## “これからの取り組み”

**現**在、経営革新の取組により、顧客ニーズに対応した製品の多様化や納期短縮化、コストの削減効果により、客先の要求に対応し、受注量は増えている。今後は販路拡大へ向けて提案営業や広告宣伝活動に注力していきたい。

また、平成30年3月に「WS 1000」という複合ラインの高性能マシンを導入した。このマシンによる工程の集約化で、省スペース・省人化が実現でき、加工にかかる時間を大幅に短縮できる。



新導入のWS 1000